

# 史料編纂室

## だより

第27回

### 「100年前の大学サークル」

今年からちょうど100年前の1921（大正10）年10月17日、当時の有名な新聞である『萬朝報』の第2面に「東宮殿下に少年少女代表より賀表を捧呈——日比谷に興じた子女一萬」という記事が掲載されています（写真1）。

紙面を読みますと、東京都下の「仏教徒少年少女連合秋季大会」が16日午前10時より日比谷公園広場で開催され、1万人の少年少女の代表者2名が東宮殿下（のちの昭和天皇）に奉祝の賀表と英文雑誌を捧呈しました。その後、「君が代」合唱などがあり、万歳三唱にて式が終わって、それから少年少女たちは会場に設置されたテント内で、各大学仏教科の学生が組織した「児童研究会」によるお伽話を楽しんで、11時ごろに散会したと書かれています。

このとき大会に参加していた児童研究会の1つに、「大学コドモ会」がありました。大学コドモ会は、大正中期に日蓮宗大学（立正大学の前身）社会問題研究会の事業として始まり、現在は「立正大学児童文化研究部（通称、じゃり研）」として続いています。本学で最も古いサークルといえるでしょう。大学史料編纂室が所蔵している、この大学コドモ会のノート（「大正十歳度コドモ會日誌」写真2）には当日の内容が詳しく書かれているほか、1923（大正12）年に起こった関東大震災の様子も記されており、史料価値が高いといえます。

2021年現在、新型コロナウイルスの蔓延によって、学生の皆さんの課外活動が制限を受けざるを得ない状況が続いていますが、課外活動は大切な学生生活の一部であることは間違いありません。新型コロナウイルスが早期に収束し、学生の皆さんが再び充実した課外活動を行なえる日が来ることを願ってやみません。



写真1：『萬朝報』第2面の記事

写真2：大学コドモ会のノート